

ここからが本当のスタートだ！ ピットスタートの不運も、完走遂げて今後につなぐ

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第3戦 富士スピードウェイ(4.563km)

2011年よりLe Beausset Motorsportsは、新たに国内トップカテゴリの全日本選手権フォーミュラ・ニッポンに挑むことになった。その第3戦が7月17日(日)に、静岡県・富士スピードウェイで開催された。

擁するドライバーは、昨年まで全日本F3選手権とともに戦っていた嵯峨宏紀。昨年の最終ラウンドで、初優勝のみならず連勝を成し遂げ、有終の美を飾ったことによって、チームともども満を持してのステップアップとなった。シャシーこそワンメイクながら、エンジン選択が許されるカテゴリにおいて、トヨタRV8Kを搭載しての参戦となる。

鈴鹿サーキットで開催された開幕戦でこそ完走を果たしたものの、続くオートボリスでの第2戦はトラブル続き。満足に周回を重ねることが許されずに終わった。とはいえ、走り慣れた富士スピードウェイは、仕切り直しには格好の舞台。本当のスタートを切るためのレースとなることが期待された。



予選

7月17日(日) 天候/晴れ コース状況/ドライ

開幕前のテストの多くが大震災の影響もあって中止になったため、今回は急きょ金曜日にも専有走行が行われることとなった。また、今回は予選、決勝を日曜日に行う1DAYイベント。土曜日にはフリー走行が2セッション設けられ、普段よりも多くのプラクティスが可能になった。前回、アクシデントによって、十分な走り込みができていないこともあり、今回はドライバーのマイレージを稼ぐことを最初の目的に。金曜日と土曜日の午前中を同じタイヤのまま走らせ、マシンの習熟に充てることとなった。

午後からのセッション2から、いよいよタイヤをチェンジ。感覚をつかみ始めてきたのは間違いなく、徐々にタイムを短縮していく中、最終確認としてセッション終了間際にはニュータイヤを装着すると、想定タイムを上回る走りを見せ、手応えをチームともどもつかんだところで予選に挑むこととなった。

このレースウィークは絶えず気温が30度を、路面温度は50度を超える、今年いちばんのハードコンディションに。普段以上に条件は厳しく、アタックのチャンスは限りなく1周しかないといっても過言ではなかった。そこでニュータイヤをQ1に2セット投入。最初のアタックでは1分28秒007、そして次のアタックでは、27秒538と想定タイムに突入させたばかりか、もう1周攻め続けた結果、27秒332をマークして上回ることに成功。

惜しくもQ2進出はならなかったものの、これまでで最も確かな手応えを得て、決勝レースには8列目の16番グリッドから挑むこととなった。



決勝

7月17日(日) 天候/晴れ コース状況/ドライ

予選終了から5時間たらず。サポートレースやピットウォークを挟んで決勝レースのスタート進行が開始された。ウォームアップで最終確認を行った後、セッティングの微調整を行った後、かねてから予定していた作戦を敢行することが決定。今回は4本のタイヤ交換が2度も義務づけられているのだが、その一方で給油は義務づけられていない。そこで燃料満タンで挑み、給油のロス在省くことに。そして、レースをほぼ3分の1に刻んでタイヤ交換を行い、その間は予選モードで走ってもらおうというわけだ。

しかし、いよいよフォーメーションラップというところで、まさかのアクシデントが発生。電気系のトラブルによってシフトチェンジを行うパドルレバーが機能しなくなり、ピットスタートを余儀なくされることとなった。マシンをピットに押し戻しメカニックによる懸命の修復で、なんとか戦線に合流。

走行を開始してからはコンスタントに周回を重ね、予定どおり13周目と29周目にピットイン。ニュータイヤに交換した後は自己のベストタイムを更新するなど、収穫も確実にあったレースとしていた。終盤になってアレキサンドレ・インペラトリー(KCMG)がリタイア、さらに国本雄資(セルモノ・インギング)がトラブルを抱えたこともあり、予選よりふたつ順位を上げ14位でのフィニッシュを果たすこととなった。

次回のレースは8月6~7日に、チームのホームコースであるツインリンクもてぎで開催される。当然、注目度は普段のレース以上。期待や声援に応えられるよう、ベストを尽くすことを誓う。



Driver
嵯峨宏紀
Koki SAGA

COMMENT

ピットスタートになってしまったのは残念でしたが、今回は練習から予選までしっかり走れて、まず目標とするタイムを出せましたし、ライバルのテールが見えるところまで来たという実感はあります。ですから、悲観はそんなにしていません。むしろ、ここまで来られたので、次にはもっと詰められるように！ポジティブな要素もいっぱいあるので、今後につなげられるようにしたいと思います。

チーム監督
坪松唯夫
Tadao TSUBOMATSU

COMMENT

チームとドライバーに取って、今回新たに設けられた合同テストはデータ収集や走行距離を稼ぐ上で有意義な時間となった。タイヤを温め、フリー走行の予選シュミレーションでは集中的に新品タイヤを使用することでタイムアップ出来た。その成果が試される予選では、中段グループとのタイム差は僅差であり、アタックするタイミングなど戦略的にも精度を上げる必要がある。決勝ではフォーメーションスタート時に電気系トラブルからピットスタートになったが、メカニック達は素早い作業でクルマをコースに戻してくれた。次戦はホームコースであるツインリンクもてぎとなるがまずはしっかりと完走を果たし、見所のあるレースにしたいと思う。

順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	36	A・ロッテラー	PETRONAS TEAM TOM'S	2
2	7	平手晃平	TEAM IMPUL	4
3	37	中嶋一貴	PETRONAS TEAM TOM'S	3
4	1	J・P・オリベイラ	TEAM IMPUL	1
5	41	塚越広大	DOCOMO TEAM DANDELION	5
6	8	石浦宏明	Team KYGNUS SUNOCO	7
7	32	小暮卓史	NAKAJIMA RACING	9
8	31	中嶋大祐	NAKAJIMA RACING	12
9	16	山本尚貴	Team 無限	6
10	40	伊沢拓也	DOCOMO TEAM DANDELION	10
11	10	小林崇志	HP REAL RACING	15
12	7	大嶋和也	Team LeMans	8
13	3	A・カルダレリ	KONDO RACING	14
14	62	嵯峨宏紀	Le Beausset Motorsports	16
15	33	国本雄資	Project μ /cerumo・INGING	11

